



別記様式(第8条関係)
(その1)

令和02年04月28日

新城市議会議長

鈴木 達雄 様

氏名 山口 洋一



令和元年度政務活動費収支報告について

新城市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、別紙のとおり
令和元年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

令和元年度政務活動費収支報告書

氏名 山口 洋一

(会派にあつては、名称及び代表者氏名)

1 収 入

政務活動費 150,000 円

2 支 出

(単位:円)

科 目	金 額	備 考		
調 査 研 修 費				
研 修 費	45,920	第13回・全国水源の里シンポジウム	参加費	3,000
			振込手数料	220
			旅費	29,700
			宿泊費	13,000
	23,350	令和2年度 第3回市町村議会議員特別セミナー	研修受講経費	6,650
			振込手数料	220
旅費			16,480	
広 報 費				
広 聴 費				
要 請 ・ 陳 情 活 動 費				
会 議 費				
資 料 作 成 費	6,774	共同使用コピー機リース料コピー使用料	6,774 円	
資 料 購 入 費				
合 計	76,044			

3 残 額

73,956 円

(注) 1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。
2 領収書又はこれに準ずる書類を添付する。

令和 2年 4月 28日

新城市議会議長 鈴木達雄様

新城市議会議員 山口洋一



令和元年11月22日に提出した報告書について、次のとおり修正します。

研修について下記のとおり報告いたします。

記

期 日 令和 元年11月 7日(木)～ 8日(金)

研修先及び目的 まんのう町 町民文化ホール
(香川県多度郡まんのう町生間415-1)
第13回 全国水源の里シンポジウム

研修内容等

7日 フォトコンテスト表彰
基調講演 「関係人口は地域に何をもたらすか」
講師 田中輝美
パネルディスカッション
コーディネーター 田口太郎 (徳島大学大学院准教授)
パネリスト 田口輝美 (ローカルジャーナリスト)
佐藤理江 (NPO 法人 ねりやかなや
レジデンス)
横井英生 (みとなみ未来会議)
山崎智久 (チーム縁の下)

大会アピール

8日 現地視察研修
森林資源活用コース
萬濃池→和紙づくり→孟宗竹加工→道の駅 (空の夢もみの木パーク)

所 感 水源の里シンポジウムは本年度で13回。 全国で水源の里振興への取組実践者が一堂になり【上流は下流を思い、下流は上流に感謝

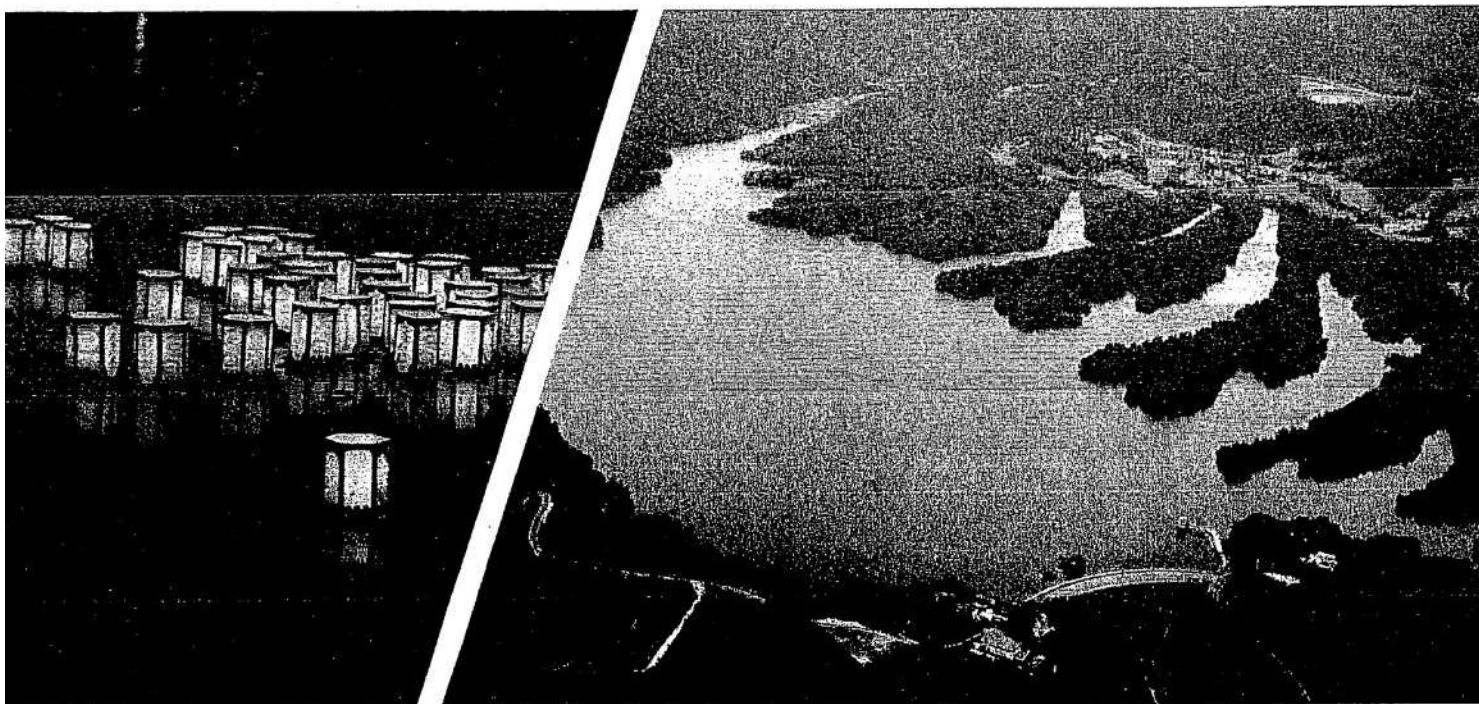
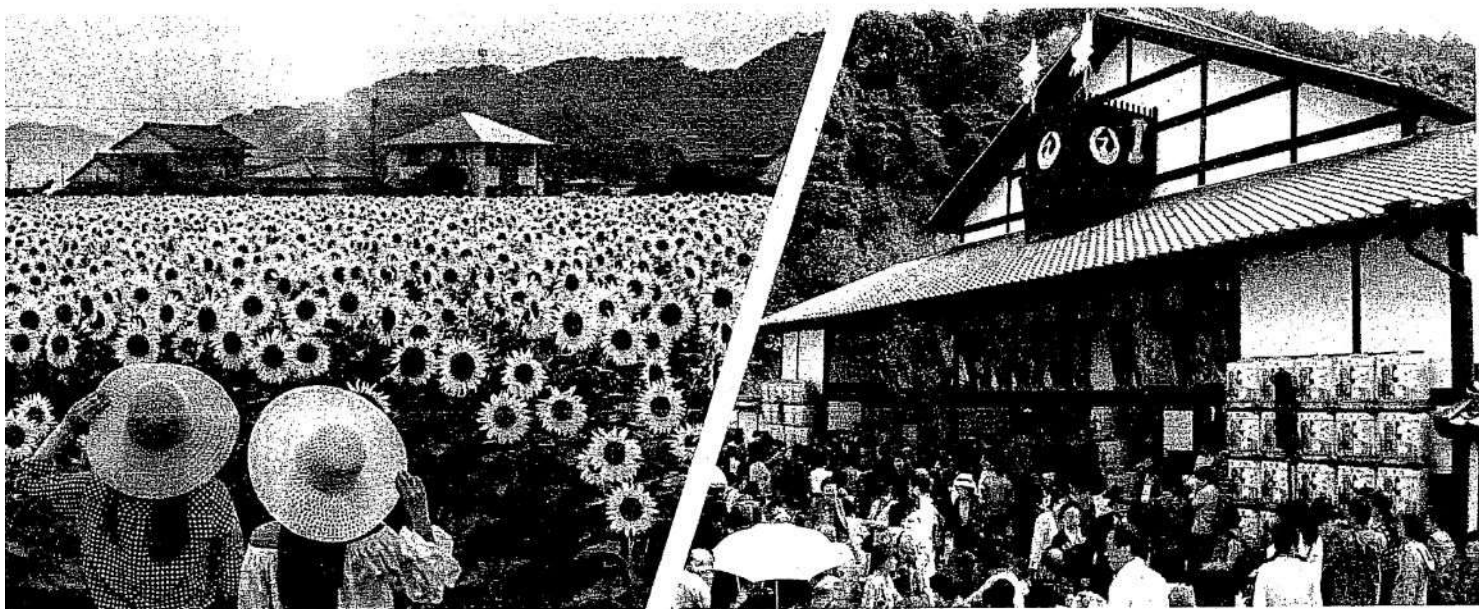
する】を理念に流域連携の必要性を提唱した取り組みより輝きを取り戻した里の市民の心を一つにする場に参加

パネルディスカッションでの実践報告における佐藤英生氏の取組事例から、今後私たちの地域に及ぼすと思慮される（過疎）への取組を研究・検討し導入すべきと思われた。その主な内容は、過疎となった地区には居住しないが、その地区【ふるさと】に頻繁に往来し、自身の親世代の生活サポートを日常生活の中で行うと共に、お祭り・消防団に参加し地域を支える **転出子** として地域サポートを実践すべきと。

現地視察にあっては、先人の苦勞により築かれた萬濃池による水への感謝の想いと、この地域に生息する孟宗竹を独自製法加工した『免疫賦活剤』への取組は地域資源の有効活用と廃校の利活用が図られており、とりわけ本市での廃校跡利用への参考となった。

参加費	視察費	3,000円		
	振込料	220円	(滝川議員と折半	440円を)
	宿泊費	13,000円		
	車馬賃	29,7000円	合計	45,920円

滝川健司議員と同行



第13回

全国水源の里シンポジウム

地域の誇りと歴史が拓く未来

～「関係人口」は地域に何をもたらすか～

開催日：令和元年11月7日(木)・8日(金)

会場：まんのう町 町民文化ホール
(香川県仲多度郡まんのう町生間415番地1)



11/7 木

シンポジウム

- 12:00 開場/受付開始
13:00～ オープニング(仲南忠八太鼓)
13:15～ 開催地紹介(まんのう町・琴平町)
13:30～ 開会式
13:55～ フォトコンテスト表彰
14:30～



総合司会
小谷あゆみ
(フリーアナウンサー)

基調講演:「関係人口」は地域に何をもちこた

■講師 田中 輝美氏
(ローカルジャーナリスト)

15:30～ ハネルディスカッション

■コーディネーター 田口 太郎氏
(徳島大学大学院准教授)

■パネリスト 田中 輝美氏
(ローカルジャーナリスト)

佐藤 理江氏
(NPO法人ねりやかなやレジデンス代表理事)

横井 英生氏
(ことなみ未来会議転出子懇談会)

山崎 智久氏
(チーム縁の下)

- 17:00～ 大会アピール/次期開催地あいさつ
17:10～ 閉会式

交流会

18:30～ 会場:ことひら温泉琴参閣
(香川県仲多度郡琴平町685-11)

出演者プロフィール



講師／パネリスト

たなか てるみ
田中 輝美氏

ローカルジャーナリスト

鳥根県浜田市生まれ。大阪大学文学部卒業後、鳥根県の地方紙・山陰中央新報社に入社し、15年間記者を務めた。琉球新報社との合同企画「環(めぐ)りの海」で2013年新聞協会賞受賞。2014年秋、同社を退社し、独立。鳥根県に暮らしながら、地域のニュースを記録・発信するフリーの「ローカルジャーナリスト」として活動している。著書に『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』(木楽舎)『ローカル鉄道という希望—新しい地域再生、はじまる』(河出書房新社、第42回交通図書賞奨励賞)など。現在、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程に通い、「関係人口」を研究している。



コーディネーター

たぐち たろう
田口 太郎氏

徳島大学大学院准教授

早稲田大学理工学部建築学科卒業。中越地震被災地で活動する地域復興支援員の研修活動や研究、中越沖地震で被災した中心市街地商店街の復興支援、集落支援員や地域おこし協力隊を始めとした地域への人的支援を各種研修会などを通じて進めている。現在、徳島県佐那河内村に家族で移住し、消防団など地元の活動にも参加。2015年から、まんのう町琴南地区で集落調査や住民主導による地域活性化の取り組み支援をしている。



パネリスト

さとう りえ
佐藤 理江氏

NPO法人ねりやかなやレジデンス代表理事

香川県まんのう町出身。大学でまちづくりを学ぶ。学生時代に訪れた奄美に魅了され通い続けること20年。現在、奄美群島において“住みたいのに家が見つからない”状況の打開にむけ、仲間と一緒に放置空き家/空き地の活用策を模索中。奄美群島と神奈川の2地域暮らし。



パネリスト

よこい ひでお
横井 英生氏

ことなみ未来会議転出子懇談会

まんのう町で最も過疎化が進行している川奥地区の出身。「転出子」として、居住はしていないが頻りに往来し、自身の親世代の生活サポートを日常生活の中で行うほか、お祭りや消防団などにも参加し地域を支えている。現在、地区の転出子たちが今後の課題を検討する「転出子懇談会」に参加し、身の丈に合った地域サポートを模索している。



パネリスト

やまざき ともひさ
山崎 智久氏

チーム縁の下

琴平町地域おこし協力隊の活動の一環として「チーム縁の下」でファシリテーター役で、まちづくり活動に取り組む。また、町教委が取りまとめる子ども塾でも講師として小学生に自然や生き物の授業を行ったり、イベントの形でムササビ観察会などを開催する。

香川県宮満濃池用水改良事業概要

●計画の大要

満濃池旧堤外法に新堤塘を6m高く築造し貯水量は2倍に増加した。貯水量の増加に伴い新たに土器川より最大8.0m³/secを取入れるため天川導水路延長4,668mを新設した。これにより満濃池受益地4,600haをかんがいする。

●工事概要

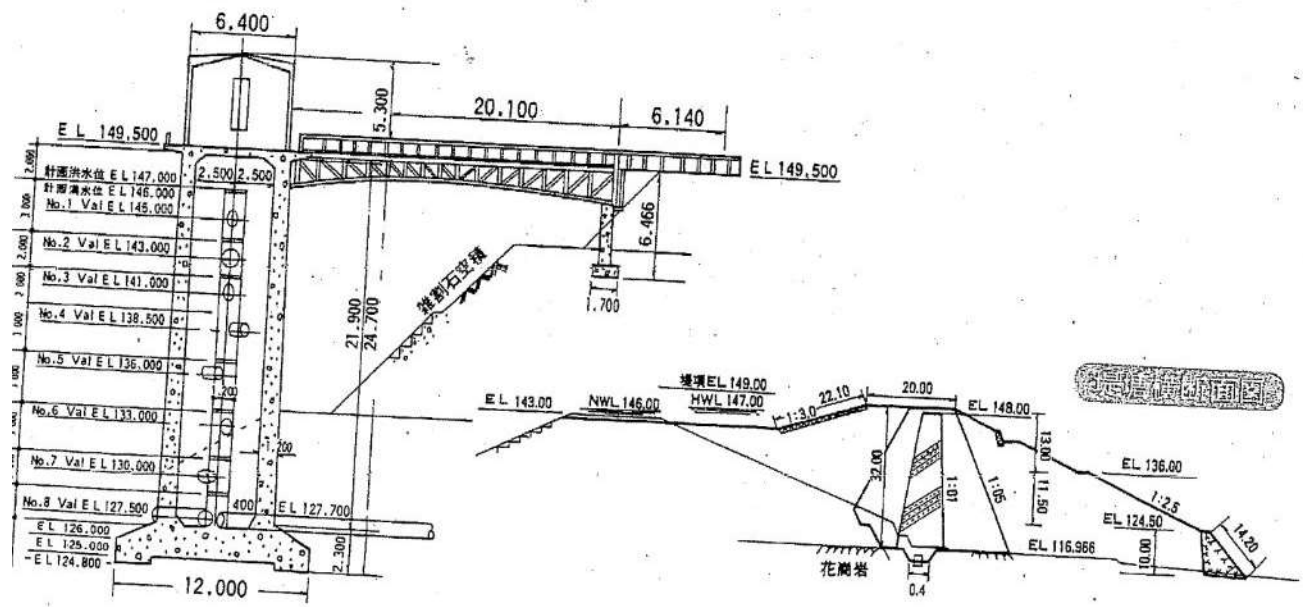
1 満濃池及び旧堤

河川名	金倉川	貯水量	15,400,000m ³ (旧7,800,000m ³)
位置	仲多度郡まんのう町神野	満水面積	138.5ha (旧104ha)
型式	土堰提供型	直接流域	1,280ha
堤高	32.0m	間接流域	8,610ha
堤長	155.80m	財田川	1,230ha
堤体積	218,000m ³	土器川	6,700 "
満水位	EL.146.00m (旧139.65m)	転石	680 "
洪水位	EL.147.00m		
法勾配	上流側3.0割、下流側2.5割		

2 満濃池附帯工事

余水吐 付替道路	型式	側溝余水吐	取水塔	高	30.0m 内径 5.00m
	計画放水量	110m ³ /sec		吸水管	φ800mm 8ヶ
	延長	4,267m		型式	隧道 放水量 5 m ³ /sec
副堰堤	幅員	3.00~3.60m	底樋管	延長	197m
	型式	土堰堤			
	堤高	東堤塘13.58m、西堤塘12.30m			
	堤長	75.60m 81.07m			
	堤体積	24,681.0m ³			

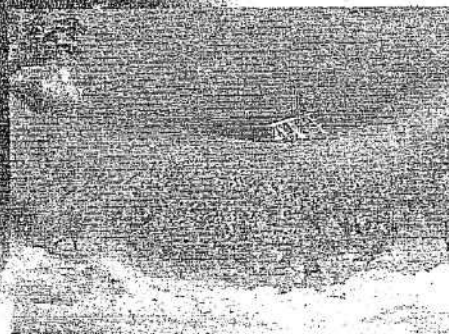
取水塔構造図



○満濃池の略史

満濃池は貯水量が1,540万m³もあり、その規模が大きいことと弘法大師ゆかりの池ということで、その名が全国に知られている。

『満濃池後碑銘』(平安遺文)によると、その創築は大正年間までさかのぼると伝えられているが、その後決壊を繰り返し、いくたびかの再築、修築を経て現在の満濃池ができあがった。



満濃池の千本橋

和年号(年)	西暦(年)	主な出来事
大宝年間	701~704	讃岐の国守道守朝臣が創築。
弘仁 9	818	洪水により堤防が決壊。
" 12	821	朝廷の築池使、路ノ真人浜継が派遣され復旧に着手したが容易に成らず、あらためて築池別当として空海(弘法大師)の派遣を要請し、この年の7月わずか2ヶ月余で再築。
仁寿 1	851	洪水により堤防が決壊。
" 2~3	852~853	讃岐国守、弘宗王が復旧。
元暦 1	1184	5月1日、洪水により堤防が決壊。 この後、鎌倉、戦国時代の争乱期を含めた約450年間は復旧されないまま荒廃にまかせられ、池の中は「池内村」となる。
寛永 5~8	1628~1631	豊臣秀吉の天下統一後大平の世となり、徳川家光の時、讃岐領主生駒家4代高俊が家臣の西嶋八兵衛に命じ再築。
嘉永 2~6	1849~1853	水掛かりは3郡44カ村35,814石に及び当時の讃岐総石高の約1/6を占めた。当時、樋管(ゆる)は木製であったため、寛永8年の再築後も底樋の伏替が6回、堅樋又は櫓の仕替は12回に及んだが、この時底樋を木製から石造りとする。
安政 1	1854	7月9日、大地震により石造りの底樋がゆるみ堤防が決壊。 幕末の混乱期で、復旧が遅れたため榎井村の庄屋、長谷川喜平治は私財を投じて東奔西走したが志半ばで死去。
明治 2~3	1869~1870	高松藩の松崎洪石衛門、倉敷県の参事島田泰雄らの支援のもと、榎井村の長谷川佐太郎、金蔵寺の和泉虎太郎らの尽力により復旧。この時堤防西隅の大岩に石穴をうがち底樋とする。 (貯水量5,846千m ³ 、役夫144,900人、工事費4,073円)
" 31	1898	堅樋、櫓の改修(工事費10,300円)
" 38~39	1905~1906	第1次嵩上(0.87m)及び余水吐改修。 (貯水量6,678千m ³ 、工事費16,761円)
大正 3	1914	配水塔新設(工事費18,900円)
昭和 2~5	1927~1930	第2次嵩上工事(1.5m)及び財田川からの承水隧道新設工事(400m)等を県営事業で実施(貯水量7,800千m ³ 、工事費428,700円)
" 15~34	1940~1959	昭和14年の大干ばつを契機に第3次の嵩上工事(6.0m)及び土器川より取水するための天川導水路工事(4,668m)を県営事業として実施し、貯水量は15,400千m ³ と倍増。(工事費543,327千円)
" 28~44	1953~1969	満濃池用水の有効利用のため、別途県営金倉川沿岸用水改良事業により、幹線水路の整備を行う。(工事費639,122千円)

会社の推移(設立前を含む)

- 2004年9月16日 孟宗竹の薬効研究(殺菌成分及び免疫賦活成分)開始
- 2008年3月18日 アンナプロバイオ株式会社 設立
- 2009年度 香川県ものづくり中小企業製品開発支援制度認定
- 2013年9月6日 乳酸発酵孟宗竹粉製造方法特許取得(第5357459号)
- 2015年10月23日 乳酸発酵孟宗竹液製造方法特許取得(第5826214号)
- 2016年6月13日 孟宗竹より免疫賦活剤GQIの発見に伴い国際特許出願(PCT/JP2016/67571号)
- 2017年4月17日 免疫賦活剤GQIのサブプリメントとしての国際調査に基づいた価値評価額決定
- 2018年3月末日 東海大学孟宗竹免疫賦活剤GQI 学内論文発表
- 2018年7月20日 乳酸発酵殺菌孟宗竹液GQS製造方法特許取得(特許 第6371045号)
- 2018年8月28日 日本糖質学会 孟宗竹免疫賦活剤GQI 論文発表
- 2018年12月1日 2025年免疫賦活剤GQIの医薬品認定を目指すプロジェクト発足
- 2019年6月7日 竹発酵抽出物の製造方法及び免疫賦活活用食品組成物又は
免疫賦活剤の製造方法特許取得(特許 第6534443号)
- 2019年10月 免疫賦活剤GQI サプリメント発売

令和 2年 4月 28日

新城市議会議長 鈴木達雄様

新城市議会議員 山口洋一



令和2年3月23日に提出した報告書について、次のとおり修正します。

研修について下記のとおり報告いたします。

記

研 修 名 第3回 市町村議会議員特別セミナー

期 日 令和 2年 1月 27日(月)～28日(火)

研修先及び目的 全国市町村国際文化研修所
(滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号)
第3回 市町村議会議員特別セミナー

研修内容等

27日 社会福祉と再生システム

講 師 京都大学大学院経済学研究科
地球環境学堂教授 諸 富 徹

超高齢社会の現状と地域包括ケアシステムによるまちづくり

講 師 東京大学高齢社会総合研究機構
特任教授 辻 哲 夫

28日 子ども家庭福祉の現状と課題

講 師 関西大学人間健康学部人間健康学科
教授 山 縣 文 治

障がい者の就労と暮らしの支援について

講 師 東近江兼圏域働き・暮らし応援センター Tekito
センター長 野々村 光 子

大会アピール

所 感 27日 第1講 経済のグローバル化への対応可能な税制への
国内税制改革と 公平な税制の構築を図り、所得再配分機能を
どの程度まで税制の役割とすべきか。加えて消費税の重要性か

ら社会保障機能充実をセットで考える事が必要。

27日 第2講 生涯現役促進地域連携事業の構築の時期として2040年代までがわが国の正念場と捕らえる時代と視ている。それに伴う政策の基本は①地域包括ケア～できる限り元気で、弱っても安心して過ごせる地域づくり ②自助互助の重要性～テクノロジーを活かした方向へのまちづくりが大切と思われた。

28日 第1講 子育てでの問題点は①生活経験欠乏症②情報依存症（知識肥満症）責任転嫁証（自分勝手症候群）これらについてみんなと折り合い調整して行き、我慢することも大切。現代の克服すべき要点と思慮した。

28日 第2講 10年後の彼を見つめた就労支援 以下の言葉に尽きると考えさせられた。【働くということ】私たちは毎日たくさんの「働きたい」と出会う。その「働きたい」思いには色んな意味がぎっしり。家族への愛や自分へのへたくソや自慢したい気持ち。稼いだお金で居酒屋へ……彼らの「働きたい」と出会う度、働く事が持つ力の大きさに驚き、学。また「働くこと」は単なる作業ではなく生きる力を育むステージ……そんなステージに立つ姿は誰もが真剣、誰もがカッコイイ、誰もがほんまもん。輝く場所がここにある。

以上を今後の糧として行きたい。

参加費	研修受講経費	6,650円	
	振込料	220円	(滝川議員と折半 440円を)
	車馬賃	16,480円	
	合計	23,350円	

滝川健司議員と同行

令和元(2019)年度

第3回 市町村議会議員特別セミナー

日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、地方議会の議員には、様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められています。

今回の研修では、「福祉」という共通テーマのもと、各分野でご活躍の著名な先生方よりご講演いただき、今後のわかまちの未来と地方議員に求められる役割について多角的に考えていきます。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

令和2年
1月27日(月)

社会福祉と財政システム

京都大学大学院経済学研究科/地球環境学堂 教授 諸富 徹氏

超高齢社会の現状と地域包括ケアシステムによるまちづくり

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏

令和2年
1月28日(火)

子ども家庭福祉の現状と課題

関西大学人間健康学部人間健康学科 教授 山縣 文治氏

障がい者の就労と暮らしの支援について

東近江圏域働き・暮らし応援センター「Tekito-」センター長 野々村 光子氏

開催要領

日程 令和2(2020)年1月27日(月)～1月28日(火) (2日間)

場所 全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象 市区町村議会議員の皆さま

2日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数 200人 募集人数を大幅に上回るお申し込みをいただいた場合は、先着順とさせていただきます。そのため、申込期限前に締め切らせていただく場合があります。その場合は、JIAMホームページのトップページ「受講者募集中の研修」でお知らせいたしますので、適宜ご確認ください。

宿泊 研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

料金 6,650円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食1回、昼食1回、夕食1回)、資料等にかかる費用です。なお、事前準備・事前学習および最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

申込期限 令和元年12月10日(火)まで

申込方法 議会事務局を通じて、JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。「Web申込み」が難しい場合は、受講申込書により議会事務局を通じてFAXでお申込ください。
※受講申込書は、議会事務局に送付しております。またJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)にも掲載しております。

受講決定 受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

● 問い合わせ先 ●

令和2年
1月
27日(月)

- 11:00～ 入寮受付・昼食
- 13:00～ 開講式・日程説明
- 13:15～14:45 **社会福祉と財政システム**
京都大学大学院経済学研究科/地球環境学堂 教授 諸富 徹氏
- 15:05～16:35 **超高齢社会の現状と地域包括ケアシステムによるまちづくり**
東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏
- 17:30～ 交流会 ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和2年
1月
28日(火)

- 9:00～10:30 **子ども家庭福祉の現状と課題**
関西大学人間健康学部人間健康学科 教授 山縣 文治氏
- 10:50～12:20 **障がい者の就労と暮らしの支援について**
東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-” センター長 野々村 光子氏
- 12:20～12:30 閉講・事務連絡

講師紹介

京都大学大学院経済学研究科/地球環境学堂 教授 諸富 徹氏

1993年同志社大学経済学部卒業。1998年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。1998年横浜国立大学経済学部助教授、2002年同大学院経済学研究科助教授、2006年同公共政策大学院助教授、2008年同大学院経済学研究科准教授。2010年より現職。この間、内閣府経済社会総合研究所客員主任研究官、ミシガン大学客員研究員を歴任。経済産業省「総合資源エネルギー調査会」臨時委員、環境省「中央環境審議会合同部会地球温暖化対策税制専門委員会」、東京都「税制調査会」等の委員を務める。

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏

1971年 東京大学法学部卒業後、厚生省(現 厚生労働省)入省。
老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官(医療保険、健康政策担当)、官房長、保険局長、厚生労働事務次官等を経て、2009年東京大学高齢社会総合研究機構教授、2011年同機構特任教授、現在に至る。
厚生労働省在任中には、医療制度改革などに携わる。

関西大学人間健康学部人間健康学科 教授 山縣 文治氏

大阪市立大学卒業後、同大学院に進学しつつ、児童養護施設の指導員を務める。
日本子ども家庭福祉学会会長、社会福祉学会理事などの学会活動のほか、厚生労働省「今後の児童家庭相談体制のあり方に関する研究会」座長、社会保障審議会臨時委員、大阪市の行動計画策定委員長など、子ども家庭福祉行政などでも活動。2004年には、子育て支援の拠点「みなくるハウス」を設置し、地域活動も手がけている。
1982年大阪市立大学生活科学部助手、1991年同講師、1994年同助教授、2003年同教授、2010年より現職。

東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-” センター長 野々村 光子氏

滋賀県竜王町出身。精神保健福祉士。2015年ふるさとづくり大賞個人表彰(総務大臣賞)受賞。
“Tekito-”では、480社に及び企業・事業所と連携し、障がいのある人やひきこもりの人の就労と生活の支援を行う。市民活動が活発な東近江の地域特性を活かし、さまざまな企業・事務所・市民活動と出会う機会を創出。これらを通じて、障がい分野以外の地域課題にも取り組んでいる。

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。

JIAMメールマガジンのお知らせ

当研修所では、メールマガジンを発行しています。各研修に関する最新情報などを定期的にお知らせします。ぜひご登録ください。読者登録は、JIAMホームページで受け付けています。

